

大志抱きすき少年

© k.r.a. 2020

f 計良 衛

発行者 計良 衛

多品目栽培農家

① 北海道

川上郡弟子屈町

計良 衛



弟子屈町内
にある摩周湖。
透明度が高いゆ
えだが、裏目から
はわかりませんでした。

6月一杯で酪農家①福井県勝山市でのアルバイトを終え、京都府の教習所で大型特殊免許取得の為の合宿免許に参加しました。農業現場で働く際には、トラクターをはじめた大型特殊車両が公道を走ることも多いため、大型特殊免許は取得しておくことが無難です。また、雪国では冬の期間除雪車に乗り除雪作業をすることで副収入を得ることも可能になります。3泊4日の合宿を終えてから北海道の釧路空港へ空路で向かいました。今回受け入れて頂く農家は基本経営者1人で農業をこなしている方で、長ネギ、シカイモを中心に多品目を栽培されています。北海道を選人台理由としては、北海道の大規模な農業を見習いたいと思ったことが大きいです。やはり農業に携わりたい者として、農業産出額が2位の鹿児島県に2.7倍の差をつけ北海道の農業(2020年)は一度は見とおきたい。余談ですが北海道は計良姓の方が他地域と比べて多いです。実際に「けいり」の名前を冠した農園もあります。

作業内容としては、長ネギの周囲に生えた雑草抜き、ズッキーニの収穫、シカイモの収穫。収穫した野菜の出荷調整(袋詰め、シール貼りなど)が主な作業でした。朝に、普段スローで見かけずズッキーニよりも一回りも二回りも大きいサイズのズッキーニを収穫します。シカイモはまず手で株ごと抜いてくっついてきたイモを獲った後、手で軽く揺りながら取りこぼしがないか確認します。この時、地面が固いと手が滑った際に指の爪が剥けそうになることが多いため、地面が固い場合は専用のフォークで揺り起します。鹿児島県、沖永良部島ではトラクターでイモを揺り起していたので、人力で揺り起すのは初めてでした。雑草抜きは至極単純な作業で草を手で抜いて、指定の場所へまとめて捨てます。

食事は三食自炊です。スローは家から15km程離れた市街地にあります。

住居は経営者の方が借りて下さった一人で生活おむけには十分な広さの1R1K1Q1B1C1D1E1F1G1H1I1J1K1L1M1N1O1P1Q1R1S1T1U1V1W1X1Y1Z1AA1AB1AC1AD1AE1AF1AG1AH1AI1AJ1AK1AL1AM1AN1AO1AP1AQ1AR1AS1AT1AU1AV1AW1AX1AY1AZ1BA1BB1BC1BD1BE1BF1BG1BH1BI1BJ1BK1BL1BM1BN1BO1BP1BQ1BR1BS1BT1BU1BV1BW1BX1BY1BZ1CA1CB1CC1CD1CE1CF1CG1CH1CI1CJ1CK1CL1CM1CN1CO1CP1CQ1CR1CS1CT1CU1CV1CW1CX1CY1CZ1DA1DB1DC1DD1DE1DF1DG1DH1DI1DJ1DK1DL1DM1DN1DO1DP1DQ1DR1DS1DT1DU1DV1DW1DX1DY1DZ1EA1EB1EC1ED1EE1EF1EG1EH1EI1EJ1EK1EL1EM1EN1EO1EP1EQ1ER1ES1ET1EU1EV1EW1EX1EY1EZ1FA1FB1FC1FD1FE1FF1FG1FH1FI1FJ1FK1FL1FM1FN1FO1FP1FQ1FR1FS1FT1FU1FV1FW1FX1FY1FZ1GA1GB1GC1GD1GE1GF1GG1GH1GI1GJ1GK1GL1GM1GN1GO1GP1GQ1GR1GS1GT1GU1GV1GW1GX1GY1GZ1HA1HB1HC1HD1HE1HF1HG1HH1HI1HJ1HK1HL1HM1HN1HO1HP1HQ1HR1HS1HT1HU1HV1HW1HX1HY1HZ1IA1IB1IC1ID1IE1IF1IG1IH1II1IJ1IK1IL1IM1IN1IO1IP1IQ1IR1IS1IT1IU1IV1IW1IX1IY1IZ1JA1JB1JC1JD1JE1JF1JG1JH1JI1JJ1JK1JL1JM1JN1JO1JP1JQ1JR1JS1JT1JU1JV1JW1JX1JY1JZ1KA1KB1KC1KD1KE1KF1KG1KH1KI1KJ1KK1KL1KM1KN1KO1KP1KQ1KR1KS1KT1KU1KV1KW1KX1KY1KZ1LA1LB1LC1LD1LE1LF1LG1LH1LI1LJ1LK1LL1LM1LN1LO1LP1LQ1LR1LS1LT1LU1LV1LW1LX1LY1LZ1MA1MB1MC1MD1ME1MF1MG1MH1MI1MJ1MK1ML1MM1MN1MO1MP1MQ1MR1MS1MT1MU1MV1MW1MX1MY1MZ1NA1NB1NC1ND1NE1NF1NG1NH1NI1NJ1NK1NL1NM1NN1NO1NP1NQ1NR1NS1NT1NU1NV1NW1NX1NY1NZ1OA1OB1OC1OD1OE1OF1OG1OH1OI1OJ1OK1OL1OM1ON1OO1OP1OQ1OR1OS1OT1OU1OV1OW1OX1OY1OZ1PA1PB1PC1PD1PE1PF1PG1PH1PI1PJ1PK1PL1PM1PN1PO1PP1PQ1PR1PS1PT1PU1PV1PW1PX1PY1PZ1QA1QB1QC1QD1QE1QF1QG1QH1QI1QJ1QK1QL1QM1QN1QO1QP1QQ1QR1QS1QT1QU1QV1QW1QX1QY1QZ1RA1RB1RC1RD1RE1RF1RG1RH1RI1RJ1RK1RL1RM1RN1RO1RP1RQ1RR1RS1RT1RU1RV1RW1RX1RY1RZ1SA1SB1SC1SD1SE1SF1SG1SH1SI1SJ1SK1SL1SM1SN1SO1SP1SQ1SR1SS1ST1SU1SV1SW1SX1SY1SZ1TA1TB1TC1TD1TE1TF1TG1TH1TI1TJ1TK1TL1TM1TN1TO1TP1TQ1TR1TS1TT1TU1TV1TW1TX1TY1TZ1UA1UB1UC1UD1UE1UF1UG1UH1UI1UJ1UK1UL1UM1UN1UO1UP1UQ1UR1US1UT1UU1UV1UW1UX1UY1UZ1VA1VB1VC1VD1VE1VF1VG1VH1VI1VJ1VK1VL1VM1VN1VO1VP1VQ1VR1VS1VT1VU1VV1VW1VX1VY1VZ1WA1WB1WC1WD1WE1WF1WG1WH1WI1WJ1WK1WL1WM1WN1WO1WP1WQ1WR1WS1WT1WU1WV1WW1WX1WY1WZ1XA1XB1XC1XD1XE1XF1XG1XH1XI1XJ1XK1XL1XM1XN1XO1XP1XQ1XR1XS1XT1XU1XV1XW1XX1XY1XZ1YA1YB1YC1YD1YE1YF1YG1YH1YI1YJ1YK1YL1YM1YN1YO1YP1YQ1YR1YS1YT1YU1YV1YW1YX1YY1YZ1ZA1ZB1ZC1ZD1ZE1ZF1ZG1ZH1ZI1ZJ1ZK1ZL1ZM1ZN1ZO1ZP1ZQ1ZR1ZS1ZT1ZU1ZV1ZW1ZX1ZY1ZZ

2022年5月13日
～2022年7月1日

大志抱きすぎ少年

酪農家
@ 福井県
勝山市

© k-r-a_2020

計良衛

発行者 計良衛



草刈りの様子
タイトルにピッタリ
な写真だと思っ
て選みました。

斗が伊モ農家@鹿角島県沖永良部島でのアルバイトを終えて一担那覇にフェリーで戻りました。見送りには20名以上が集まってくれました。こんなに沢山の人の見送ってもらえたのは今回が初めてでした。中にはダンスパフォーマンスをしてくれた人もいて、私もただ手を振りただけではなく、何かパフォーマンスがきり様になりたいと思いました。それと、ギターが弾けり様になりたい。沖永良部では時々アルバイトの皆で浜辺で焚火をしたから歌を歌ったりしていました。その時ギターが弾けり人が羨ましくて仕方なかった...

那覇から大阪経由で恐竜王国福井県へ向いました。酪農家を選人が理由としては、一度酪農の現場を見たいと思ったこと、乳製品の加工、販売も行ってほしいとのこと、六次産業化の様子を見たいと思えました。また、大学の仲良くしていた先輩が金沢にいいこともありました。私は当初 沖永良部→九州→中国と日本を北上しながら旅を予定したので、金沢の企業に就職した先輩とは「先輩が南下して、私が北上して、大体中間の鹿角島辺りで会いましょ!」と話をしていただけに、先輩は驚いていました。しかしその先輩とは、私が土日に休みをとることができなかったため、結局お会いすることができませんでした...

勝山の酪農家に到着した翌日からアルバイトが始まりました。電話で受け入れた先の農家の方と話した際には「君の様な大学で農業を勉強した人だからこそ、うちで働いて欲しい」と言ってくれたのですが、実際の現場ではほとんど知らないうちばかりで「あ、ここが大学の習わなかったの。」と指摘されることも多かったです。私はアルバイト初日から牛に関する本を借りて毎日勉強しました。作業内容は主に牛に関する作業と鶏に関する作業の2つです。まず、朝6時から8時まで牛の搾乳をします。搾乳には経験が必要であるため、私は搾った乳が入ったバケットを大きなタンクに移し替える作業、牛の排せつ物を牛舎の外にある堆肥置き場へ捨てるボロさらい、そして餌やりをしました。特に牛の糞をスコップですくい、一輪車に載せ

りが提供されたため、牛乳がほかと違います。また、牛乳をジュースや果実酒が割って飲んだりもしました。仕事終りはプロテインを牛乳に溶かしていました。水を飲むくらいなら牛乳を飲むと畜舎にも牛乳をストックしていました。「日本の皆さんに完全栄養食である牛乳をもっと沢山飲んで欲しい」と語りオーナーさんも喜んでいました。



エピソード ② アイスクリームを5個食べた記録更新

アルバイトの特典として酪農家の直営店のアイスクリーム食べ放題というものがありました。私はエピソード①と同じ理由でできず限り食べたのですが、5個食べたその後一時間は動けず横になっていました。ただ、アルバイトの歴代記録は3個だったのが大幅に更新できました。

エピソード ③ リゾルマウンテングと道草を食う

牛は愛情あると他の個体の後ろに足を掛けて乗、かろうとします。(マウンテング) 日常会話でよくマウントをとりと言いますが、実際にマウンティングを見てみると迫力が凄まじい。何百kgという体重の牛が乗、かると想像してみてください。このマウンティングは愛情の兆候なのを会社員に伝えます。ただ、どの牛がどの牛に乗、かたかを判断するのは、牛の特徴を十分に覚えているのと難しいです。基本的には牛の模様やサイズで識別します。(耳にある識別番号が確認できれば問題ないですが)。また、私が働いた酪農家は日中5時間程牛を放牧します。牛舎から所定の草地へ移動する際に、牛が道端の草を食べていることが多くありました。これが道草を食うの由来かと妙に納得しました。昔は現代より牛が身近な存在だったため、このような言葉が生まれたのだとします。昔の子供は牛を引いて学校へ登校していたという話もあります。

エピソード ④ 鶏の卵を丸飲みにする青大将

鶏舎の中には鶏が卵を産むための場所があり産卵箱が設置されています。つくりは単純で木製の木柵を横倒りにした様な構造で、中には沢山のモミカスが敷かれています。また、箱の中はうす暗くする為にビニールなどで覆いかけてあります。ある日の午後、アルバイトの方に呼ばれて鶏舎へ行くと、箱の中に体調80cmの青大将が卵を丸飲みしていました。よく観察

2022年4月1日
 ~2022年5月11日

大志抱きすき少年

シヤガイモ農家
 @鹿児島県
 沖永良部島

📷 k_r_a_2020

📍 計良衛

👤 飛行者 計良衛



農作業の様子
 写真手前のトラクターで
 シヤガイモを掘り起こします。
 写真左上で皆がシヤガイモ
 を収穫しています。

大学生生活を宮城で過ごした私は農業をするなら温かい場所が良いと思い、大学を卒業した翌月4月1日に沖縄県の那覇港からフェリーで鹿児島県沖永良部島へ向かいました。一昨年の8月に愛媛県のみが農家でアルバイトをしていた際に、同じくアルバイトをしていた女性に「沢山人が集まっていて楽しい。農家さんの人柄も良い」と紹介してもらったことが、せめて旅をするのであれば人生で1回行くか行かないか分からないような場所を選びたいと思ったことも理由にありました。

到着した次の日からアルバイトが始まりました。作業内容としては主にシヤガイモ拾いと選別の2つでした。まず、拾いは土に埋まったシヤガイモを爪の様な機械がついたトラクターで掘り起こし、地面表面に現れたシヤガイモを手で拾いながら厚手のビニール袋へ入れ作業です。姿勢は基本的に中腰が四つん這いです。中腰が拾った方が作業効率は上がりませんが、相当腰に負担がかかるため、大半の人は四つん這いで拾っていました。つい先月までUberなどのデリバリーのアルバイトで自転車を漕ぐ程度しか体を鍛えていなかった私にとって、拾いは半端なくキツかったです。私はアルバイト2日目の夜にはあまりの重労働で放心状態でした。そんな時、農家のおばあさんが「疲れたでしょう」と言ってくれ、肩を揉んでくれました。私は自分の不甲斐なさに涙が出そうでした。おばあさんはこれ以降もオレジャジュースを「こころ」というタイミングで渡してくれました。その度に頑張ろうと思ったものです。拾いはとにかく辛かったです。一週間もお子と慣れ、大半は中腰が拾いやすくなりました。次に選別は拾ったシヤガイモをサイズごとに分けた上で箱詰めする作業です。この作業は屋内で行うため拾いよりは暑さの面では楽でした。私が担当した作業は大きめにサイズが分けられたシヤガイモをS・M・Lサイズに分ける作業と、箱詰めされたシヤガイモの重量測定でした。どちらの作業も基本一人で黙々と行います。本当は近所の人と話したのですが、シヤガイモを選別する機械の音が大きいという由来

大学生の時に入居していた寮で後輩がつけてくれたあだ名。



休憩の様子
沖永良部島は4月が暑くて、皆座っています。時々おやつにアイスが出て嬉しかったです。

エピソード② 近所のおじさんの家で郷土料理をご馳走になる

私は新聞を読むのが好きなので、寮に配属されてからもよく読み、近所の新聞屋を訪ねました。この際にお会いした新聞屋のおじさんと仲良くなり、家へ食事の誘いを受けました。おじさんは奥さんが旅行中の為、一人で寂しかった様で、家に何と喜ぶので、沢山料理を作ってくれました。「せっかくだから郷土料理を食べさせてあげようと思ってる」と、豚足と煮た料理、豚の肝臓の味噌汁、ニョリをゆでた料理、島で獲れたイカのバター炒め等々、これぞビールも出して下されました。どう見ても二人前以上はありな筈と思いましたが、郷土料理というよりは酒のお供、珍味ばかりで割りと味が濃い料理が多く、結果としてかなりビールを飲みました。豚の肝臓はゆで卵の黄身の様で味が良かったです。途中でおじさんの兄弟も合流し大いに盛り上がりました。近年の異常気象や種苗法、安定のないジャガイモの市場価格などの真面目な話から恋愛の話までしました。個人的にはおじさんが大学進学の際に週刊のイブニングの広告欄に掲載された大学を受験し進学したという話が印象的でした。その日は沢山の馬車走りにあつたので夜はほとんど寝ませんでした。

エピソード③ 亀仙人の息子に出会いウミガメを見に行く

ある日の仕事帰り寮の近くでサッカーをしている若者二人に声を掛け、混ぜてもらいました。二人共農業をしている様で話が合いますぐに仲良くなりました。話をしているうちに若者の一人が地元でウミガメの保全活動をしている方(亀仙人と呼ばれては)の息子さんということがわかりました。翌日際にせっかくなのでウミガメの産卵の様子を見せたくらいだったので、その日の夜近くの浜辺へ行きました。ウミガメは一般的に懐中電灯の白色光では光を認知して産卵をやめてしまうので、ウミガメには見えない赤色光のライトを持って浜辺を歩きます。ウミガメが地面を這った後を探る様に言われ探すと20分、赤色光に照らされたウミガメを見つけた時は思わず「オオ」と言っていました。私は日常会話でリアクションが薄いと言われてもあつたので、この時の驚きをなかなかに笑った。ウミガメはバサバサと音をたてながら手足を器用に使い、石を掘っていきます。ただ、心から良かった。一時間以上ウミガメはほぼノンストップで穴を掘り続けるのですが、なかなか産卵までたどり着か

ない。最初の20分位は興味津々でしたが、それ以降はもう月包までしまいました笑 (しかもウシガキが全身を使って大きな穴を掘り、さらに足で小さな探り穴を掘、という最中に浜辺に人が来て来々大きな物音を声をたてたので)、ウシガキは産卵を中止して別の場所へと移動してしまいました。

エピソード④ シカイを収穫を手伝った食事に行ってきた

公園でサカカを以て仲良くなった若者二人のうち一人は時々アルバイト中や家の前で見かけることがありました。沖永良部島で過ごす最終日、その方が食事にご誘いくださいました。とこの日も、その日の2日前に偶然家の近くで会い話をしていたと、シカイの収穫をしてほしいとのこと、手伝いに行きたいとお礼のことでした。「手伝ったお礼もしたい、沖永良部で楽しい思い出を作りたい」と言って街の居酒屋へ行きました。手伝いといっても2,3時間シカイを拾っただけでしたが、こいまだに嬉しいことに驚きました。「島で生活しているとなかなか島の外の人と接する機会がないから、公園で声を掛けられたのが嬉しかった」と言います。私も、アルバイト先の農家さん以外の島の知り合いができて嬉しかったです。こういう人とのつながりは大事にしたい、これこそ旅の醍醐味だと思います。その日の夜は2陣目も行き帰宅したのは13時を過ぎています。お酒を飲みませいで、寮の玄関近くの永太まりに飛び込みました。

エピソード⑤ 水平線から昇る太陽を見る

同じ農家がアルバイトをしている子が毎朝海岸で朝日を見たいと聞いて私も見に行くことにした。普段早起きはあきらまの、朝日を見たことはなかったのが興味がありました。その日は雲が多く水平線から昇る太陽は見れませんでした。雲のすき間から顔を出した太陽は海岸の景色と相まって素敵な景色でした。これまで色々な景色を見ましたが、日の出は比較的短時間に一気に太陽が顔を出し昇るので他とは違うダイナミクスがあると思います。その日以降私は毎日朝日を見に行きました。時々back numberの水平線の歌詞にあつた情景を見ることができました。



打ち上げの様子
皆の元気が足りて予定よりも早く収穫が終りました。
この日はかなりお酒を飲んだ